

# 日本地域福祉学会第37回大会（長野大会） 開催要項

## 大会テーマ

### 地域福祉が目指す「あんしん未来」を問う

～時間のつながりと地域循環の視点から考える～

#### 大会趣旨

長野県が全国に先駆けて制度化した「家庭介護婦派遣事業（現ホームヘルプ・サービス）は、戦災の影響が残るなかで、疾病・病気などの理由から生活基盤が揺らぐ世帯の自立を目指し、その後、高齢者や障がい者の地域生活を支える在宅サービスの中核事業へと発展しました。この源流は、本大会開催地である上田市における民生委員活動などの地域福祉実践にあります。

戦中末期、佐久市臼田（当時臼田町）に誕生した佐久病院では、戦後、劣悪な環境で暮らす農村民に対して、出張診療による保健・予防活動を積極的に行い、健康教育を推進するなど、農村医療の道を拓きました。地域に根ざして住民の健康と生活を増進する地域医療の理念は、現在の保健医療にも深く刻み込まれています。

社会教育分野では、戦前の経験から学びつつ、戦後民主主義を具体化する「地域の茶の間」として公民館の設立が建議され、全国で進められましたが、特に信州において花開き、大小あわせて約4千館が地域に深く根を下ろし、住民の学びと地域づくりの拠点として欠かせないものとなりました。

こうした取組は、戦後、都市への人口集中や工業化の影響が押し寄せるなかでも、住民どうしをつなぎながら地域の暮らしの基盤を守り続けてきました。今、人口は減少に転じ、地球規模の気候変動を日々の暮らしのなかで実感するようになり、SDGsへの取組も含め持続可能な社会のあり方や新たな価値を模索するなど、時代の大きな転換期を迎えようとしています。時代が巡っても、普遍的な人の暮らしの営みを大切にしてきた地域での取組や実践に学ぶことは多くあります。

一方、持続可能性の議論からは、地域づくりにおける新しい可能性が見えてきており、今とこれからの人々の暮らしが豊かに営まれ続けるために資源循環の視点を踏まえた地域福祉の理論化が求められています。

私たちが目指すこれからは、人々の共感力を高め、人と人、人と資源、人と自然が、世代、分野、空間や時間を超えてつながり、住民一人ひとりの存在が尊重され、生きがいをもって暮らせる地域を皆でつくっていく地域共生社会の実現にあります。この理念のもと、制度や政策の効果を最大限に高め、地域の状況に合わせた豊かな地域実践を展開するために、次の世代の幸せにも思いを寄せながら目の前の縦割りや利害を超え、創造的で学際的な研究を志向していく必要があります。

今大会は、信州で展開されてきた地域福祉の源流を汲み取り、今の流れはやがて未来につながるという時間のつながりと資源の循環から地域福祉を考えることで、具体的な根拠と希望をもった「あんしん未来」を信州から全国に発信することを目指して開催します。

期 日： 令和5年（2023年）6月10日（土）～11日（日）

会 場： 10日（土）：上田市交流文化芸術センター「サントミュージゼ」  
11日（日）：長野大学

主 催： 日本地域福祉学会、日本地域福祉学会長野大会実行委員会

後 援： 長野県地域福祉活動計画（「信州ふっころプラン」）参画団体（予定）

## 1 スケジュール

【1日目】令和5年（2023年）6月10日（土） 会場：「サントミューゼ」

9:30 10:30 11:00 12:30 13:30 16:40 16:50 18:30

受付	開 会 式	記念講演	昼 食	大会企画 鼎談 シンポジウム	休 憩	総会	情報 交換会
----	-------------	------	--------	----------------------	--------	----	-----------

【2日目】令和5年（2023年）6月11日（日） 会場：「長野大学」

8:30 9:00 10:30 12:00 13:00 14:00 15:00 16:00 16:30

受付	自由研究発表Ⅰ		昼 食 ・ 地 方 部 会	自由研究発表Ⅱ		閉 会 式
	地域福祉 優秀実践賞			日韓学術交流企画		
	授与式 報告	20周年 記念企画		開催地企画 シンポジウム		

## 2 プログラム内容

**記念講演 6月10日（土） 11:00~12:30**

テーマ 「いのちに寄り添う」

鎌田 實 氏（作家・医師／諏訪中央病院名誉院長）

対談：原田 正樹 氏（日本地域福祉学会会長、日本福祉大学教授）

人生100年時代を迎えたと言われていています。いのちの期日が長くなることそのまま人々の幸せにつながる社会であってほしいと私たちは願います。健康長寿を生み出し、たとえ病気や判断能力が不十分になっても、尊厳が失われることなく、最後までその人らしく生き続けることができるための支え合いの地域や包括ケアのシステムづくりが必要です。

本講演と対談を通じて、一人ひとりが健やかに人生をまっとうできるために、地域福祉はこれから個々のいのちにどのように寄り添い、実践として何に取組むべきかを探求します。

**大会企画 鼎談 6月10日（土） 13:30~14:50**

鼎談テーマ 「長野県の地域福祉の源流を探る ―住民自治といのちを守る―」

盛岡 正博 氏（佐久総合病院副院長、長野厚生連病院理事長、佐久学園理事長）

藤原 忠彦 氏（長野県社会福祉協議会会長、前川上村村長、元全国町村会長）

大橋 謙策 氏（日本社会事業大学名誉教授、日本テクノエイド協会理事長）

開催地である長野県を舞台に取組まれてきた地域福祉の源流には、農村医療の普及活動があり、住民に対して衛生や健康の正しい知識を伝達してきた過程は、地域福祉の流れにも影響しています。

また、住民生活の基盤づくりや住民相互のつながりづくり、豊かな暮らしの創出などを命題に地方自

治が展開されてきた歴史を紐解きながら、自治と人々の暮らしやいのちとの関係性に学び、今日に至る地域福祉の展開を再確認します。

## 大会企画 シンポジウム 6月10日(土) 15:00~16:40

### シンポジウムテーマ 「孤独・社会的孤立にどう向き合うかー地域福祉への挑戦ー」

論点報告・コメンテーター

菊池 馨実 氏（早稲田大学教授、内閣府「孤独・孤立」有識者会議座長）

シンポジスト

斉藤 雅茂 氏（日本福祉大学教授）

中井 俊雄 氏（ノートルダム清心女子大学准教授）

コーディネーター

所 めぐみ 氏（関西大学教授）

現代の格差・分断社会のなかで、社会的な孤独・孤立は深刻化しています。これらは自殺、虐待、生活困窮、さまざまな地域生活課題に大きな影響をもたらしており、またコロナ禍で一層、その傾向は顕著になっています。望まない孤独・社会的孤立は「自己責任」ではなく、家族、地域、雇用といった社会構造の変化、それに伴う政策的な遅れが背景にあると考えられます。

地域福祉研究・実践として、人々の孤独や社会的孤立にどう向き合うべきか。そのことは現象に対する対処療法や支援だけではなく、これからの社会保障、地域共生社会、ダイバーシティやインクルージョン、包括的支援体制の在り方を問うテーマです。

## 地域福祉優秀実践賞 20周年記念企画 6月11日(日) 10:30~12:00

### 第20回地域福祉学会優秀実践賞記念事業

「受賞団体とともに振り返る地域福祉学会優秀実践賞のこれまでとこれから」(仮)

シンポジスト

森脇 俊二 氏（氷見市社会福祉協議会事務局次長） 第1回（2004年）

鈴木 恵子 氏（認定NPO法人 すずの会理事長） 第5回（2008年）

村井 琢哉 氏（特定非営利活動法人 山科醍醐こどものひろば理事長）第15回（2018年）

コメンテーター

宮城 孝 氏（法政大学教授）

コーディネーター

永田 祐 氏（同志社大学教授）

日本地域福祉学会は、2003年以降、地域福祉学会優秀実践賞として19回にわたり、先駆的で独創的に地域福祉の推進に取り組む団体を表彰してきました。

本シンポジウムでは、第20回の節目に際し、受賞団体からの報告により、受賞当時の実践と現在につながる経過を紹介していただくとともに、受賞した先駆的な実践が、この間の地域福祉の状況をめぐる変化を踏まえ、どのように発展しているのかを共有します。

また、そのことを通じて、学会として大切にしてきたこと（先駆性・独創性、継続性・発展性、参加性・普及性、記録性）を改めて確認するとともに、今後の優秀実践賞の意義を確認し、今後の展望を考えます。

（※なお、9:00からは第20回地域福祉優秀実践賞授賞式と報告があります。）

## テーマ 「日韓における孤独・孤立対策」

### 報告者

イ・グアンヒョン 氏（韓国保健福祉部地域福祉課書記官）

ソン・インジュ 氏（ソウル福祉財団研究委員）

濱島 淑恵 氏（大阪歯科大学教授）

### コーディネーター

加山 弾 氏（東洋大学教授）

孤独・孤立については、日韓両国に共通する社会問題であり、その解決に向けた支援方策が検討されている点においても共通する点が多いテーマです。特に、韓国では社会保障情報システムを活用したアウトリーチや緊急支援が展開されており、日本の情報システム構築や活用に関して多くの示唆があると考えられます。さらに、地域社会統合ケア（コミュニティケア）の構築も進められていますので、この関係や地域福祉現場での具体的な対策について報告します。

一方、日本では、孤独・孤立支援に関する事例のなかからヤングケアラー支援を取り上げます。お互いの政策や実践から支援のあり方を探ります。

## テーマ 「信州発・共生の未来に向けてー未来志向の地域福祉実践を探るー」

### シンポジスト

樋口 正幸 氏（小滝復興プロジェクトチーム、栄村公民館長）

和栗 剛 氏（特定非営利活動法人わっこ谷の山福農林舎代表）

山田 翔太 氏（御代田町社会福祉協議会主任）

道田 久美子 氏（社会福祉法人中信社会福祉協会生活支援員）

### コーディネーター

鈴木 由美子 氏（長野大学准教授）

今、持続可能な社会の実現を自らの人生の問題として考える若者たちは、人と人の共生、人と自然の共生、都市部と農山村地域の共生と循環など、共生の地域づくりに未来の可能性を感じているのではないのでしょうか。

信州の各地で既に始まっている共生と循環をキーワードとした未来志向の実践の報告から、地域福祉が目指すべき「あんしん未来」を描きます。

## 3 自由研究発表の申し込み

### 1. 申込方法

大会専用ホームページ（<http://www.gakkai.ne.jp/jracd2023>）からお申し込みください。  
なお、「自由研究発表原稿様式」（添付様式1）及び「エントリーチェックリスト」（添付様式2）をあらかじめダウンロードし、申し込み時に必ず添付してください。

### 2. 申込締切

2023年3月22日(水) 24時まで

※申し込みには、演題と要旨集レジュメの登録が必要になります。原稿は下に説明する「自由研究発表原稿様式」に基づき作成してください。必ず所定の書式に従って提出してください。

「自由研究発表原稿様式」

1 発表につき A4縦1枚（横書き）

余白：上下 25 mm 左右 20 mm

文字数：1 ページ 40 字×40 字

フォント：主題 12 ポイント MSゴシック・中央揃

副題 10.5 ポイント MSゴシック・中央揃

氏名（団体名）：10.5 ポイント MS 明朝

所属・会員番号（発表責任者氏名・会員番号）：9 ポイント MS 明朝

見出し：11 ポイント MSゴシック

本文：10.5 ポイント MS明朝（だ・である調で記入）

3. 記述内容

原稿は、①研究目的、②研究の方法、③倫理的配慮、④結果・考察という基本的な枠組みを示して執筆してください。なお、結果・考察について「当日資料共有」という未完成原稿は認められません。

4. 発表資格

日本地域福祉学会員（団体会員を含む）であることが条件です。なお、以下についてのルールが守れないと発表資格が無いと判断されることがありますのでご注意ください。

- ・発表者は、日本地域福祉学会理事会において会員として承認されており、2022 年度分までの会費が納入されていること。なお、2023 年3月 24 日（金）の同理事会において新入会が認められた場合、4月末までに入会金、会費を支払うこと。
- ・発表の要旨集レジュメに、必ず会員番号が記入されていること。共同研究報告で1名でも会員番号の記載が無ければ発表要旨の受理が出来ません。なお、入会申請中の場合は、「入会申請中」と記入してください。入会が認められ次第、会員番号をお知らせしますので、後日会員番号の記入をお願いします。

5. 発表件数

- ・筆頭発表者（ファースト・オーサー）は1 演題に限ります。また、団体会員の発表は1 団体につき1 演題とします。
- ・1 グループ（1 団体）の連続発表は2 つまでとします。
- ・演題の申し込みは必ず筆頭発表者（団体会員の場合は、発表責任者）が行ってください。演題の申込者と筆頭発表者が異なる場合は受理できません。
- ・筆頭発表者は、発表とは別に他の研究発表等で共同研究者として名前を連ねることは可能です。

6. 要旨確認

倫理的配慮の観点から、原稿の修正等を求めることがあります。修正を求められた場合には、修正コメントに基づいて指定した期日までに再提出をしてください。再提出がされない場合には、発表することができません。

7. 分科会

希望する分科会を下記リストの中からお選びください（第1 希望から第3 希望まで）。団体会員も、個人会員と同じ分科会で行いますので、同様に希望する分科会を選んでください。

各分科会の人数の調整や発表するテーマと分科会の関連などから、希望する分科会での発表ができないことがありますのであらかじめご了承ください。

## <分科会リスト>

第1分科会 理論・歴史	地域福祉に関する理論・歴史
第2分科会 政策・制度	地域福祉に関する政策、諸制度、包括的支援体制等
第3分科会 推進主体	行政、社協、ボランティア・NPO、住民組織、民生委員・児童委員、共同募金等
第4分科会 対象・対象者	高齢者、障害者、児童、生活困窮者、外国人、LGBTQ等
第5分科会 地域福祉（活動）計画、運営管理	地域福祉計画、地域福祉活動計画、運営管理、評価等
第6分科会 地域福祉の諸活動・権利擁護	小地域福祉活動、見守り活動、サロン・居場所づくり活動、権利擁護、当事者組織化等
第7分科会 地域福祉の方法	コミュニティソーシャルワーク、コミュニティオーガナイズィング、ファンドレイズィング等
第8分科会 福祉教育・福祉文化	サービ斯拉ーニング、ボランティア学習、世代間交流、多文化共生等
第9分科会 社会福祉施設・社会福祉法人	社会福祉施設、社会福祉法人による地域における公益的な取組等
第10分科会 災害と地域福祉	災害時要配慮者支援、福祉避難所支援、災害ボランティア支援、BCP、コロナ禍への対応等

## 4 自由研究発表の方法

### 1. 発表時間

1 発表につき 25 分（発表 15 分、質疑 10 分）となります。

### 2. 発表方法

口頭での発表となります。パワーポイント等の映写目的のプロジェクター及びその他の視聴覚機器の使用はできません。

### 3. 配布資料

- 当日の配布資料がある発表者は、60 部を目安に当日持参いただきます。
- 当日配布資料の内容については、日本地域福祉学会倫理規程に基づき、研究対象とした個人の特定ができないようにしてください。写真についても発表内容を伝えるために本当に必要なものであるかを判断し、使用する場合は本人の了解をとり、その旨を明示するようにしてください。倫理的に問題があると判断された場合、コメンテーターが当日の発表を中止する場合があります。なお、万が一の倫理的な問題によるトラブルが生じた場合、発表者の責任となり、学会はその責を負えません。

（日本地域福祉学会研究倫理規程アドレス：[http://jracd.jp/file/9\\_rinri\\_kitei.pdf](http://jracd.jp/file/9_rinri_kitei.pdf)）

- 資料として動画は使用できません。

## 5 大会参加の申し込み

### 1. 申込方法

大会専用ホームページ（<http://www.gakkai.ne.jp/jracd2023>）からお申し込みください。  
申込受付完了後、確認メールが送られます。1週間経ってもメールが届かない場合は、名鉄観光サービス株式会社長野営業所にお問い合わせください。

なお、団体会員の場合も、参加申し込みは個人単位で行ってください。

### 2. 申込期間

**申込締め切り** 2023年5月8日（月）24時まで

**入金締め切り** 2023年5月22日（月）締切

### 3. 参加費

会員（団体会員を含む）：9,000円 非会員：10,000円 大学院生：4,000円

学部学生：1,000円

※申込み後の返金には一切応じられませんので、あらかじめご了承ください。

### 4. 情報交換会

1日目の18時30分より情報交換会の開催を予定しています。参加を希望される方は大会参加とあわせてお申し込みください。なお、感染対策を行ったうえで実施しますが、状況によっては中止となる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

・会場：上田東急REIホテル（〒386-0025 長野県上田市天神4-24-1）

・情報交換会参加費：6,000円

### 5. 昼食

両日とも事前にお弁当の予約を受け付けます。希望される方は大会参加とあわせてお申込みください。なお、お弁当の予約をされない方は、各自ご持参ください。特に2日目の会場周辺においては、昼食等を購入できる場所が限られます。

・内容等 1,100円税込（お茶付）

### 6. 移動手段

両日とも車での来場は可能です。指定された場所への駐車をお願いします。

なお、2日目の会場への移動にあたり、上田駅間における送迎バスを手配しています。利用を希望される方は大会参加とあわせてお申込みください。

・運行日時 6月11日（日）

・運行区間 往路：上田駅温泉口（貸切バス乗り場）08時00分発⇒長野大学08時20分着  
復路：長野大学16時30分発⇒上田駅温泉口（貸切バス乗り場）16時50分着

・料金 お一人様 一乗車（片道）400円

・その他 原則お申し込みがないとご乗車いただけません。ただし、当日空席がある場合はこの限りではありません。また、上記区間、時間以外の運行はございませんので、上田電鉄別所線など公共交通機関をご利用ください。

### 7. 託児

両日の会場ともに託児のご用意があります。ご希望の方は大会参加とあわせてお申し込みください。（利用料は利用者の負担になります。）

### 8. 情報保障

手話通訳や要約筆記を配置し情報保障に配慮します。なお、分科会では個別に対応しますので、必要がある方はその旨を申込時にお申し出ください。

## 6 会場アクセス



電車：北陸新幹線・しなの鉄道「上田駅」から徒歩約7分  
車：上信越自動車道「上田菅平IC」より約15分



電車：北陸新幹線・しなの鉄道「上田駅」から  
上田電鉄別所線に乗り換え、大学前駅より徒歩約10分  
車：上信越自動車道「上田菅平IC」より約25分

## 7 問い合わせ先

### 【自由研究発表及び大会運営に関すること】

長野大会実行委員会事務局（社会福祉法人長野県社会福祉協議会 総務企画部 中島）  
〒380-0936 長野県中御所岡田 98-1  
TEL：026-228-4244 FAX：026-228-0130  
MAIL：[kikaku@nsyakyo.or.jp](mailto:kikaku@nsyakyo.or.jp)

### 【大会参加申込み等に関すること】

名鉄観光サービス株式会社長野営業所 原  
〒381-0038 長野県長野市東和田 857-1（信州名鉄長野ビル）  
TEL：026-244-8557 FAX：026-217-8151  
MAIL：[gakkai-nagano37@mwt.co.jp](mailto:gakkai-nagano37@mwt.co.jp)

【添付様式1】自由研究発表原稿様式（A4サイズ）

25mm

(※ 1行空白)

主題：12pt MSゴシック・中央揃  
— 副題：10.5pt MSゴシック・中央揃 —

氏名 10.5pt MS明朝（所属・会員番号 9pt MS明朝）  
\* 共同研究の場合は、筆頭報告者の氏名に○印をつける。

【※団体会員の場合】  
団体名 10.5pt MS明朝（発表責任者氏名・会員番号 9pt MS明朝）

20mm

20mm

1. 研究目的（見出し 11pt MSゴシック、本文 10.5pt MS明朝）
2. 研究の方法（見出し 11pt MSゴシック、本文 10.5pt MS明朝）
3. 倫理的配慮（見出し 11pt MSゴシック、本文 10.5pt MS明朝）
4. 結果・考察（見出し 11pt MSゴシック、本文 10.5pt MS明朝）

25mm

【添付様式2】日本地域福祉学会自由研究発表エントリーチェックリスト

会員番号		氏名 (団体会員の場合 は団体名)	
------	--	-------------------------	--

以下の内容に間違いがないことを確認した上で、研究倫理に配慮した報告を行います。

No.	チェック項目	チェック欄
1	発表要旨が指定の書式（文字の大きさ・字体・余白等）で作成されている。	
2	研究の目的・方法・倫理的配慮・結果・考察が記載されている。	
3	共同研究の場合、筆頭報告者に○印がついている。※団体会員は非該当	
4	共同研究の場合、全員が学会員である（入会申請済でも可）※団体会員は非該当	
5	当事者あるいは責任ある立場の者から研究協力の同意を得ている。	
6	当事者あるいは責任ある立場の者から学会報告の承諾を得ている。	
7	文献や資料を引用している場合、出典が明記されている。	
8	差別的表現や社会的に不適切な用語が使用されていない。	
9	発表内容は他の学会での発表と多重報告ではない。	
10	当日配付予定の資料や掲示物等においても研究倫理に配慮する（発表時に再確認する）。	
11	倫理的配慮の内容を発表要旨に記載しきれない場合、以下に記載してください。	
12	その他、発表に関して特記事項がある場合、以下に記載してください。	

